

組合せの原則

【インターハイ予選（個人戦）】

<ブロック予選>

- (1) シングルスは京都総体を兼ねているので各ブロックを2つのゾーンに分け決勝戦まで行う。ダブルスは各ブロックともベスト8を決める試合まで行う。各種目ともベスト16以上が決勝トーナメント(Round I)に出場できる。
- (2) 1日目はシングルス、2日目はダブルスを行う。1ブロックの数はシングルス80人、ダブルス40組を目安とする。

ブロック分け

- ① 前大会（新人個人）のベスト64以上の選手が多い学校をシード校とする。実績のある1年生がいる学校、前大会けが等で出場できなかった有力選手がいる学校については考慮する。
- ② シード校を入れたあとに会場校を入れる。そのあと参加数の多い学校から抽選する。

組み合わせ

- ① 各ブロックとも8シードまでは取る。
- ② シードは前大会ベスト64の選手、前大会出場できなかった有力選手、有力1年生をシードに置く。
- ③ 同一学校の選手配置については、選手数が2人の場合はトーナメントの山を1/2に一人ずつ、3～4人の場合は1/4、5～8人は1/8、9～16人の場合は1/16に一人が入るようにする。

<決勝トーナメント>

- (1) 前大会ベスト16以内の選手については、大シード制とし、決勝トーナメント2日目（ダブルス）3日目（シングルス）(Round II)からの出場とする。
- (2) 前大会ベスト32の選手は、予選ブロックから勝ち上がってきた選手と決勝トーナメント1日目（Round I）に試合を行いダブルス16組、シングルス16人を決定し決勝トーナメント2日目・3日目（Round II）に進む。試合はダブルスから行う。
- (3) ベスト4は順位決定リーグ戦とする。
- (4) 対戦順序 1.①A-B ②C-D 2.①の勝者-②の敗者 ②の勝者-①の敗者 3.残りの試合

組み合わせ

- ① 第1シード～第4シードは前大会（新人個人）のベスト4とする。
- ② 第5シード～第8シードは前大会のベスト8とする。学校バランス、前回対戦は考慮する。
- ③ 第9シード～第16シードは前大会のベスト16とする。学校バランス前回対戦を考慮する。
- ④ 第17シード～第32シードについては前大会ベスト32を優先する。学校バランスを考慮する。また、ブロック予選のゾーン優勝者をシードに入れる。両丹については前大会の成績を優先とし、予選免除者は別枠扱いとする。
- ⑤ 有力な1年生、前回出場できなかった有力選手については、学校バランスを考えて第21シード～第24シード（有力1年生）、第17シード～第20シード（前欠有力選手）の中に入れる。
- ⑥ ダブルスの組み替えについては下記のように考える。ポイントについては次のようにする。
1位：11点 2位：9点 ベスト4：7点 ベスト8：5点 ベスト16：3点 ベスト32：1点
例1 前回 ベスト8 A君・B君組 ベスト16 C君・D君組
今回 A君・C君組 ポイント4点 B君・D君組 ポイント4点
A君・C君組、B君・D君組は前大会のベスト8とベスト16の中間と考える。
例2 前回ベスト4とベスト32の場合は決勝トーナメント1日目（Round I）からの出場。
前回ベスト4とベスト64の場合は予選ブロックからの出場とする。
- ⑦ シード選手が少ないときは繰り上げる。

【インターハイ予選（学校対抗）】

<ブロック予選>

- (1) ブロック数については、決勝トーナメント数が男女とも原則32校までになるように調整する。
- (2) 各ブロックの2位までが決勝トーナメントに出場できる。
- (3) 前大会（新人学校対抗）のベスト4以上については決勝トーナメントからの出場とする。（両丹は別）

ブロック分け

- ① 前大会のベスト8の学校、ベスト16の学校をシード校とする。
- ② 会場校を入れていく。上位ブロックほどリーグ数を少なく、下位ブロックほどリーグ数を多くする。

<決勝トーナメント>

組み合わせ

- ① 第1シードから第4シードについては前大会の1位から4位とする。
- ② 第5シードから第8シードについては前大会のベスト8を同ランクとして抽選する。このとき前大会と同一の対戦になっても考慮しない。ブロック予選で1位通過できなかった学校についてはシードをはずす。
- ③ 第9シードから第16シードについては前大会のベスト16を同ランクとして抽選する。ブロック予選を1位通過できなかった学校についてはシードをはずす。
- ④ ブロック予選2位通過校については1位通過校の反対側に入れる。
- ⑤ 両丹の学校は両丹予選の順位を優先して入れる。

【近畿大会予選】

組み合わせ

- ① 前大会（インターハイ予選）の上位選手（ベスト64以上の選手）をシードする。
- ② ダブルスの組み替えについてはインターハイ予選と同様に考える。
- ③ 両丹は両丹予選の順位を優先して入れる。Round II 出場者については別枠とする。ただし、出場数は大会運営に関する注意事項に準ずる。

【新人大会（学校対抗）】

<ブロック予選>

- (1) ブロック数については、決勝トーナメント数が男女とも原則32校までになるように調整する。
- (2) 各ブロックの2位までが決勝トーナメントに出場できる。

ブロック分け

- ① シード校は近畿大会予選の上位者（ベスト64以上）のシングルス、ダブルスの合計ポイントで決定する。ポイントについては、次のようにする。
1位：13点 2位：11点 ベスト4：9点 ベスト8：7点 ベスト16：5点 ベスト32：3点
ベスト64：1点
- ② 合計ポイントの近い学校をグループにして分ける。ポイントの差が3ポイント以上は抽選しない。
- ③ シード校を入れたあとに会場校を入れる。上位ブロックほどリーグ数を少なく、下位ブロックほどリーグ数を多くする。

<決勝トーナメント>

組み合わせ

- ① ポイントの高い学校から第1シード・第2シード・・・とする。ポイントが近い場合は抽選とする。ポイントの差が3以上は抽選しない。
- ② ブロック予選2位通過校は1位通過校の反対側に入れる。
- ③ 両丹の学校は両丹予選の順位を優先して入れる。

【新人大会（個人戦）】

<ブロック予選>

- (1) シングルス、ダブルスは同じブロックで行う。
- (2) 近畿大会予選ベスト16以上は決勝トーナメントから出場する。

ブロック分け

- ① 前大会（近畿予選）のベスト64以上の選手のポイントが多い学校をシード校とする。前々大会（インターハイ予選）でベスト32以上で近畿予選に出場していない選手も考慮する。
- ② シード校を入れたあと会場校を入れる。そのあと参加数の多い学校から抽選する。

組み合わせ

- ① 各ブロックとも8シードまでは取る。
- ② シード選手は前大会ベスト64以上の選手、前々大会ベスト32以上の選手とする。

<決勝トーナメント>

組み合わせ

原則以下のように組合せを行う。ただし、同一校から複数の参加がある場合は、できる限り等分に分ける。また、ベスト16入り以上の対戦は、前大会の対戦を考慮する。

- ① 第1シード～第4シードは前大会のベスト4とする。
- ② 第5シード～第8シードは前大会のベスト8とする。
- ③ 第9シード～第12シードは前大会のベスト9とする。
- ④ 第13シード～第16シードは前大会のベスト16とする。
- ⑤ 第17シード～第32シードは前大会のベスト32および前々大会ベスト32以上とする。
- ⑥ 両丹については前大会の成績を優先とし、予選免除者は別枠扱いとする。

(注) 有力1年生とは全国中学生大会出場（個人）、都道府県対抗出場、地区大会（近畿大会など）ベスト4以上とする。
個人戦においては、学校内ランクよりもポイント点数を優先とする。